

15 管理運営

進捗状況報告

2007年度において大きな進捗はなかったが、2008年度に入り、理事長と学長が連名で法人と大学の新たな基本構想を策定する方針を示しており、その基本構想を策定するための委員会において、これらの目標を達成するための施策等が検討されることとなろう。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

2006年3月31日に開催された経営教学協議会で法人から大学に協力要請があった学部事務統合を視野に入れたシステム再構築が検討され、時計台2階に学部事務組織を設置することが検討された。その組織体は、シェアードサービス型を目指す方向で検討されたが、2007年9月4日開催の第12回推進本部会議で、事務統合の計画を凍結すること、そして業務運用については、パッケージシステムの導入に向けて「財政的効果の実現」「業務改善の持続性確保」の観点より引き続き業務改革を進めることが確認された。

学内第三者評価

2003年度自己点検・評価項目に設定した目標に「学長のリーダーシップに基づく、選択と集中による速やかな意思決定」を掲げ、認証評価でも「学内での十分な議論に基づき、目標達成に向けて一層の努力を期待したい。」とされているにもかかわらず進捗状況報告に記述がない。

学長の交代時期であったものの、2007年度に実施した学部等事務統合の凍結などの施策について自己点検・評価していくことが必要である。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
新たな基本構想の策定に期待する。